

第5.1節 正月料理「せいの神」

2022年2月 第49号

子供たちにとっては、1月15日の「せいの神」が楽しみなお正月行事でした。せいの神と言うのは、6年生の男の子を頭として2、3年生の男の子が参加し、それぞれ役割を決めて2日間位かけて家々を回って、年末に外したしめ縄、お札、また七草の日に外した正月のお飾り等を集めて歩きます。こうしてすっかり集めたものを坂下の田んぼに積み上げ、その中心にせいの神のご神体を置いて、周りには孟宗竹1、2本と真竹10本を、穴に立てます。集まったお神酒銭からお神酒と豆腐を買って供え、親方がお米と塩を持ち寄って準備をします。

いよいよ15日の夜明けです。大人の立会いのもと、親方が組み立てた櫓に火をつけ、せいの神の灯はしめ縄や飾りにも高々と燃え上がり、天を衝くばかりに焦がします。火が下火になると、人々は持ち寄ったお餅をその灰にくべて焼いて食べました。このお餅を食べると、風邪をひかないと言われ、お神酒の残りを親方から分けてもらい、喜んで田圃から持って帰りました。

このせいの神は、その昔浄土宗の伝乗寺（世田谷区尾山台2-10-3 尾山台ナザレン教会と田園調布雙葉高校の中間の位置）の境内で行っていましたが、享和2年（1802年）にこの日のお寺が焼損し、以降は田んぼで行われることになったという事です。その時の火事で焼け残りと言われる柿の木が、今でもお寺に残っているそうです。お正月の行事が終わる頃、



画像は yahoo Japan から引用

冬の寒さは一段と厳しくなり、人々は仕事に明け暮れる生活に戻ります。冬はいろいろの傍や土間で藁仕事等をする日が多く、暖くなる日を待つのです。どの農家でも北風を受けて、多くの干した大根が揺れていました。今回の最後に子供の頃から伝えられた言い伝えを示しますが、迷信も含まれています。

でも、今でも立派に通用するものも数多く含まれています。①焦げ付いた鍋の臭いは、消し炭でとる。 ②枯れたトクサは、鉛筆の芯が丸くなるのを磨き、赤子の爪切りにもなる。 ③いぼが出来たら、イボタの木の前で白紙（半紙）をいくつか細長く折り、「治ったらほどいてやる」と言いながら擦り、その後白紙をイボタの木に結び付けて帰れば、イボは知らないうちにとれる。 ④あせもが出来たら、桃の葉をもんで、その汁をあせもの部分に付けると治る。乳児にはふろの湯に入れる。 ⑤筍を茹でる時は、米ぬかと一緒に茹でると、苦みが取れる。 ⑥餅のかびは、水餅にして防ぐ。 ⑦高血圧の人は、狐の舌の干したのを煎じて飲むと治る。 ⑧打撲傷には、小麦粉と酢をクチナシの実を混ぜて湿布する。黒焼きにした女竹の皮を入れると、尚良く効く。 ⑨百日咳除けには、便所の雨落ちにその子の年の数だけ煎り豆（節分の豆）をいけて、「豆の芽が出る迄二度と患わない様に」と唱える。 ⑩地震占いには、六つ、八ツ風に、四つ日照り、五つ、七つが雨で、九つは病。（数は時刻を示す）（ふるさと世田谷を語る 尾山台・奥沢（世田谷区生活文化部文化・国際課）より）

【おまけ】

集まった人々は火に強いとされる三叉の樫の木や竹を用い、その先端に刺した団子を焼いて食べる

ことで、一年の無病息災を願いました。黒く焦げないように銀紙を巻いて焼く人や直接炭につけて焼く人などもありました。

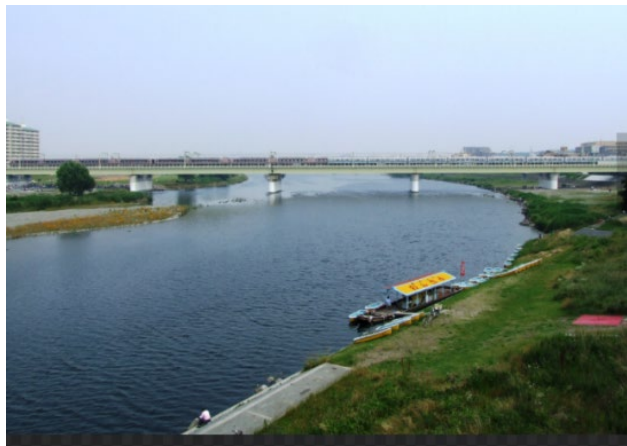
人生を豊かに（雑学のすすめ）

ずっと大切にしたい「川崎の風景ランキング」

かわさき市政だよりの読書アンケート「100年後にも残したい川崎の風景は？」の結果は、1位「生田緑地」、2位「多摩川」、3位「二ヶ領用水」でした。その理由を見ると、生田緑地は都会の中でも豊かな自然を感じられる、今も昔もリラックスの場です。多摩川は、眺めていると癒される、みんなで守っていききたいです。二ヶ領用水は、生活に寄り添う景観、毎年桜の季節が楽しみです。



写真は上から生田緑地)、多摩川、(二ヶ領用水)
(画像はいずれも Yahoo Japan から引用)



耳寄り情報

【奥州伊達家の贈り物は？格？】

伊達 泰宗（だて やすむね、1959年2月9日 - ）は、伊達政宗から数えて18代目の伊達家当主で、伊達氏宗家34代当主になります。伊達政宗は関ヶ原の戦いで徳川家康に味方し、その恩賞として、甘糟景継から奪った刈田郡白石城2万石（実高4万石）をそのまま安堵・加増されました。翌年には、仙台城を築いて岩出山城から移り、後に近江国と常陸国で飛び地の小領土も得て、前田（102万石）・越後松平（75万石）・島津（72万石）・越前松平（67万石）・豊臣（65万石）に次ぐ徳川政権下で第6位（大坂の役と戦後の宇和島別家取り立て、松平忠輝と松平忠直の改易後は、前田・島津に次ぎ第3位）62万石余の大藩になりました。伊達家では、太刀や具足、戦で使う馬を贈答品として送ったそうです。将軍家には20振り、30振りの単位で太刀を贈りました。奥州は馬の産地なので、将軍家には一度に90頭の馬を贈ったとの記録があります。これは将軍家との関係を深めると同時に、奥州での統括者としての「格」を認めさせることでもありました。



第5.2節 渋沢栄一と海軍村

2022年10月 第57号

大正12年(1923年)3月に目蒲線が沼部迄開通して便利になり、奥沢駅付近は徐々に宅地化が進みました。これより前、大正6年(1917年)頃の欧米視察から帰国した渋沢栄一氏が田園都市構想を発表し、玉川村、東調布村(現田園調布)を候補地に選定しました。この為、この周辺では安い土地で坪1円位から、高い場所では坪5~6円での買取話が浮上しました(ドイツ村写真)。



大正12年(1923年)9月1日の関東大震災発生時には、山手線の内側は危ないとの噂な流れ、郊外へと住処を求める様になりました。すでに洗足や田園調布周辺は高値でしたが、その狭間の奥沢は若干安値で虎ノ門の海軍省と横須賀の海軍鎮守府の中間地点なことも有り、海軍士官達がこの奥沢を希望する様になりました。奥沢二丁目の地主原一族は進んで土地を提供し、大正13年(1924年)10月からこれらの海軍士官と借地契約を結びました。最初は5軒でしたが、その後続々と希望者が増加して大正年間には17件にも及び、海軍村と呼ばれ、その後も更に増加して30軒に達しました。各家の敷地は140坪から300坪と広く、当時の地代は1坪8銭と記載されています。どの家も建物はほとんどが平屋なのでゆったりしていますが、関東大震災直後の資材不足で屋根はスレー瓦(屋根等に使用する材料の1つで、天然スレートと人工スレートがある。天然スレートは、粘板岩等を薄板に加工した屋根材で、天然石を使用するので加工も手間がかかり高価である。人工スレートは、セメントと繊維材料を混ぜて、高圧でプレスして厚さ約5mm程度に成型されたもの。)、木材は輸入材(米材)を使用しています。



この様に短期間で数多の軍人が住む様になったのは、海軍軍人の親睦団体である水交社から資金が借りられたことと、殆どが水交社指定の大工に依頼したことによると思われます。この軍人の家庭では女中を置いていたので、子供達は勉強に専念出来、学校での成績も優秀であったという事です。この軍人達は海軍でも主計関係の仕事に携わる人々が多く、終戦時の階級は中将、少将が半数位で、他は左官級(ほとんどは大佐)でした。

終戦時の空襲では昭和20年(1945年)5月24日の空襲で2件が罹災しました。その後、世代は変わっても、今も16軒の家族がそのまま住みついています。一方、同じ大正13年(1924年)頃実業家で大学教授であった原熊吉氏がドイツ留学から帰国して、海軍村の北側(奥沢2-45)の一角にドイツ風の家を建築しました。その後も欧米から帰国した人々がいずれもこの近くに洋風の家を4~5軒建築しましたが、特にドイツ風の建築物が目立ったので、近状の方々はここをドイツ村と呼ぶ様になりました。このドイツ風建築はモダンな二階家で、当時からテーブル、椅子、中にはベッドを使用する生活をしていました。原氏は昭和4年(1929年)から一期間玉川村村会議員にもなりました。

海軍村とドイツ村の人々は道路を境に源平の様に分かれて、運動会(かけっこが主だった様です)を催したり、野球の試合をしたりして親睦をはかりました。また地主とも仲が良く、この海軍村は今も昔

の建築の面影を留めていますが、ドイツ村の方は殆どその跡は無くなりました。（参考：海軍村は奥沢駅から約10分、自由が丘駅から約15分。）

田園都市の建築の基準は、1. 他の迷惑となる如き建物を建造せざること。 2. 障壁はこれを設ける場合にも瀟洒典雅のものたらしむること。 3. 建物は三階建て以下とすること。 4. 建物敷地は宅地の五割以下とすること。 5. 建築線と道路との間隔は道路幅員の二分の一以上とすること。 6. 住宅の工費は坪当たり百二、三十円以上とすること。そして、これらの「理念」及び「建築の基準」は現在の田園調布において「社団法人田園調布会」及び大田区都市計画による「田園調布憲章」「環境保全についての申し合わせ」及び「大田区田園調布地区地区計画」などにより受け継がれています。

人生を豊かに（雑学のすすめ）

道玄坂は与謝野晶子？－11人の母

道玄坂は鎌倉時代初期の豪族和田義盛の末裔、大和田太郎道玄が界限で山賊夜盗を働いた、あるいは道玄庵という寺の庵主が、徳川家康に由緒書を出した云々が地名のおこりになっています。同道玄坂上信号の左手に与謝野晶子の歌碑が建っています。与謝野晶子は、1901年（明治34年）に郷里の大阪府の堺から単身上京し、この近傍で鉄幹と所帯を持ったことが、歌碑設置の由来です。処女歌集の『みだれ髪』も刊行しています。

詩歌の革新をめざした寛との新婚生活でしたが、晶子にとって、身心の負担は思いもよらず大きなものでした。歌人として、また妻としての多忙な日々のひととときに、住まいから近い道玄坂の上にしばしばたたずんで、西空の果てに連なる相州の山々を眺めていたのです。その山々の方向にあたる遠い堺の生家を思い、母親を懐かしんだのです。

晶子の恋は不倫から始まり、歌集「みだれ髪」の一種、「柔肌の熱き血潮にふれもせで寂しからずや道を説く君」は、鉄幹に迫った歌であることは、良く知られたエピソードです。63歳で息を引き取るまでの間、約5万首の歌や詩を発表したそうです。単純に計算しても、毎日3～4首の歌を詠んで、発表していたことになります。11人の子供を養うため、原稿料の前借をしつつも、エネルギーに生き抜いていった与謝野晶子の活躍ぶりが、目に浮かぶ様です。大の温泉好きでした。



耳寄り情報

脳の退化を防ぐにはビタミンEとEPA

心臓病があって、脳血栓の心配もある人の最も大事な栄養的なアプローチは、EPAとビタミンEです。特にビタミンEは、出来るだけ大量に摂ると良いです。脳血栓で多いのが、血流が再開するたびに脳の神経が大量に壊れていくことです。一過性の虚血が起こった時、身体はそれをカバーしようと、血流がもう一回流れるようにします。この時、症状は消えているけれど、実は再び血液が流れた時に大量の活性酸素が発生します。そして、神経細胞が徐々に死にます。

それを唯一防ぐことが出来るのがビタミンEです。だから心房細動や弁膜症の人は、どんな薬を飲んでいてもビタミンEやEPAは絶対必要です。